

# エコノミスト 360° 視点



渡辺 博史 国際通貨研究所理事長

## 海水面上昇がもたらす身近な影響

地球温暖化の影響の一つとして、海水面の上昇が挙げられる。気温の上昇で海水が膨張し総量が増えるほか、陸上の氷塊（氷河など）が溶融することでも海水は増加する。さらに、太陽光をかなり反射していた氷面が無くなれば、温暖化は一段と加速する。こうした複合要因によって海水面が上昇するという。

この影響については、国土

全域の標高が極めて低い島より国が水没しかねないことに関心が集まるが、それではやや遠い国のことだと感じ、自分事として考える緊迫感が高まらないかもしれない。

しかし、海水面上昇はもう少し身近な影響をもたらす。

3つの問題を指摘したい。

まず、産業基盤となる発電所や石油精製・ガス施設、コンビナートへの影響だ。こう

した施設は燃料や原料、素材の多くが海運で搬入されるため、輸送の便を考えて海岸に近い標高数㍍地帯に集積している。これは日本特有の話ではなく、かなりの数の国も事情は同じだ。海水面が上昇すれば高潮による上振れで「水害」にさらされかねない施設が世界的に見て極めて多い。

これらは日本の施設が機能を止められることによる打撃となる。東南アジア諸国の関係者は話していると、「豊かな日本は自己資金で堤防・護岸をかさ上げし、施設を囲い込むことで被害の減少に努めるだろう。しかし、我々にはそれが資金余力がない」と言わざるを得ない。重要なパートナーであるこれらの国の問題にどう対処するかも課題だ

次に、淡水の「汽水化」である。静岡県の浜名湖のように淡水に海水が混じり合った水域が拡大することだ。多くの場合、汽水域は河口部に形成されるが、世界の農業地域の相当部分は大河のデルタ地域など河口部に存在する。汽水化による塩害はその生産基盤を喪失させかねない。世界人口は増え続け、今世紀末には100億人に達するとされ

300万人が居住している地域が水没するとされる。インド亜大陸にあるバングラデシュはさらに深刻だ。平均標高が低くかつ人口も多いため、同様の海水面上昇が起

大な打撃となる。

東南アジア諸国の関係者と話していると、「豊かな日本

に淡水の「汽水化」である。静岡県の浜名湖のように淡水に海水が混じり合った水域が拡大することだ。多くの場合、汽水域は河口部に形成されるが、世界の農業地域の相当部分は大河のデルタ地域など河口部に存在する。汽

水化による塩害はその生産基盤を喪失させかねない。世界人口は増え続け、今世紀末には100億人に達するとされ

300万人が居住している地域が水没するとされる。印度亜大陸にあるバングラデシュはさらに深刻だ。平均標高が低くかつ人口も多いため、同様の海水面上昇が起

をいかに最小化するかは頭の痛い問題といえる。

最後に、居住地域の水没で

ある。全土が水没することは

ないにしても、海水面が上昇すれば、これまで居住可能であ

った地域が水没することに

なる。日本でも、海水面が1

㍍以上昇した場合には、現在約

300万人が居住している地

域が水没するとされる。

インド亜大陸にあるバングラデシュはさらに深刻だ。平均標高が低くかつ人口も多いため、同様の海水面上昇が起

ること、1000万人単位の

国民が居住すべき土地を失う

とされる。同国は国土のほとんどどの地域が人口密集地で、これだけの人数が避難する場所を国内で確保するのは難しく、隣国のインドへ避難民が流入することも想定される。

これをインドが容認するかどうかは極めて大きな課題だ。

対応によつては地域の安全を

損なう、という議論が既に前

世紀末から真剣に行われてい

るが、関係国間の合意は難しいようである。

が、それに逆行する負の動き